

『ひろがる言葉 小学国語 四上』年間指導計画・評価計画（案）

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4	—	四年生で学ぶこと				
4	4 （話す聞く2）	言葉に親しもう	—			
4	2 （話す聞く2）	わたしは、だあれ	◇自分の知りたいことを明確にして、質問をする。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	1・2	○質問し合いながら、自分のカードに書いてある名前をあてるという学習の見通しをもつ。 1. 物の名前をカードに書く。 （1）物の名前をカードに書く。 2. グループでカードを交換する。 （1）カードはグループでまとめて他のグループと交換する。書かれている名前がわからないようにする。 3. カードを確かめ、相手に渡す。 （1）カードを1枚もらって2人で組になる。相手のカードの名前を確かめてから渡す。自分のカードの名前は見ない。相手の名前は知っているが自分の名前は知らないようにする。 4. カードに書かれた名前を当てる。 （1）相手からのヒントを元に質問し合い、自分が何になっているかを当てる。 例) A「わたしはこういうものです。」（カードを相手に見せる） B「ああ、あなたはよく空を飛んでいて、気持ちよさそうですね。」【ヒント】 A「気持ちよさそうに見えますか？ どんな季節によく見かけますか？」【質問】 B「秋によく見かけます。めがねも似合っていますよ。」【ヒント】 A「わたしはとんぼですか？」 B「そうです。」 ○質問やヒントを出し合いながら伝え合うおもしろさや難しさを振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。
	2	春のうた	□◇声に出して読んだり、共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。 □言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読する。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ	3	1. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クック。」の読み方を話し合う。 2. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック。」の読み方を工夫しながら音読する。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
		あり	□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	4	1. 「あり→ありっこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読する。 2. 「ありっこないあり」の姿を、頭の中にイメージを描いて音読を楽しむ。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4	10 (書く 3)	一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって、「この日」のできごとを日記に書く。			
		白いぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやりたり、親切にしたり、真心をもって接することについて考える。	1～3 4・5 6・7 8～10	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. (1) 初発の感想をノートにまとめて紹介し合う。 (2) 全体を4つの場面に分け、それぞれの場面で松井さんが出会った人や、もの・ことをノートなどに整理する。 (3) 場面ごとの松井さんの気持ちを、(2)で整理したものを書き加える。 考えよう 2. 作品の特徴である、においや色を表す言葉を見つけ、その言葉と場面の様子や人物の気持ちとのつながりを考えて話し合う。 深めよう 3. 登場人物の中で、特に気になった人物について考えや感想をもち、話し合う。 広げよう 4. 松井さんになったつもりで、「この日」のできごとを日記に書く。 (1) 今までに学習したことを生かして書く。 (2) 書いた日記を友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。
4～5	4 (書く 4)	びったりの言葉、見つけよう	■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	1 2・3 4	○学習の流れを知り、見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 心が動いたことを思い出す。 (1) 教科書の文章を読む。 (2) 最近のできごとを振り返り、心が動いたできごとを思いっただけ書き出す。 (3) 思いっただけの中から、一つを選ぶ。 2. その時の心の様子を、「うれしかった」「悲しかった」などの言葉を使わずに言い表す。 書こう・読み返そう 3. 5, 6文ぐらいの短い文章で書く。 ○どうして心が動いたのか話し合う。 ○友達の意見を聞いて、文章を直したり、書き加えたりする。 ○書きためた文章を読み返し、学習を振り返る。 ○時間に余裕があれば、友達とお互いの文章を交流することで、心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもつて、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	2	漢字の広場 ① 漢字の部首	△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 共通している部分から、何に関係のある漢字かを考える。 2. p.30の下段の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながり等について話し合う。 2 3. p.31の上段の設問に提示している漢字について、それぞれの部首を考える。 4. 巻末の「漢字を学ぼう」を使って、同じ部首の漢字を集める。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	16 (書く3)	二 けっかとけつろんのつながりをとらえよう				
5	2	ぞうの重さを量る	□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒思判表C(1)ウ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア	1	1. 大きな重い物の重さをどのようにして量っているのか、想像し話し合う。 2. 教材名や挿絵をもとに、象の重さをどのようにして量ったのか、話し合う。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） 【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、考える筋道をつかもうとしている。
5～6	10 (書く3)	花を見つける手がかり	□「もしんちようは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア	3	確かめよう 1. 段落分けや「始め・中・終わり」の構成を確かめ、初読の感想をまとめる。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。
				4・5	2. 文章の冒頭部分を読み、実験の筋道をたどる。 (1) もしんちようについて知っていることを話し合う。 (2) 文章で明らかにしようとしている問題と予想される答えを、題名と第1・2段落をもとに話し合う。	
				6～9	考えよう 3. 問題と実験からわかった事実、そこから筆者が導き出した結論との関係に気をつけて文章を読む。 (1) 三つの実験について、それぞれ、「使ったもの」「そのとくちよう」「実験のけっか」「けつろん」に分けて表にまとめる。 (2) 第14段落で予想される反論を取り上げている意味を考えて、話し合う。 (3) 第5・6段落に着目し、日高先生たちが持っていた「もう一つの疑問」について話し合う。	
				10・11	深めよう 4. 実験の進め方や結論の出し方について話し合う。 (1) 三つの実験を比べて、考えの進め方の特徴をとらえる。	
				12	広げよう 5. 児童が筆者とともに問題を追究しているような、文章のおもしろさについて考える。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	4	分類をもとに本を見つけれう	△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、本を探すときに役立てる。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、分類記号を手がかりに本を探して読む。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す	13・14	○分類記号を手がかりに本を探すという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 1. 図書館の本の分類の仕方を知る。 (1) 身のまわりで、分類されているものを考える。 (2) 図書館に行き、本が内容ごとに分類され置いていることを確かめる。 (3) 「日本十進分類法」のしくみを知る。 (4) ラベルの記号について知る。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
6	3 (話す聞く3)	メモの取り方をくふうして聞こう	◇相手の話の大切なことを落とさないように、工夫してメモを取りながら話を聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア	1	○校長先生や図書ボランティアの話を聞き、聞き取りメモを作成するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 話そう・聞こう（重点） 1. メモを取りながら、お話を聞く。 (1) 教科書を開かず、p.50・51のお話を聞きメモを取る。 2. 聞いた内容について、メモをもとに友達と話し合う。 (1) メモを見せ合いながら内容を確認する。メモの取り方を交流する。 3. 自分の考えを伝える。 (1) 自分が作るとしたらどんな言葉を選ぶかを考え、発表し合う。 2・3 4. メモを取りながらお話を聞く。 (1) p.52を教師に読んでもらい、実際にメモを取って友達と比べる。 (2) メモの取り方を確認する。 (3) 互いにメモを取りながらインタビューし合う。 5. 聞いたことをまとめる。 (1) 聞いたことをメモをもとに発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	2	漢字辞典の引き方	△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒知技(3)ウ	1	○学習の見通しをもつ。 1. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。 2. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
				2	3. 設問に従って、部首索引・音訓索引・総画索引を活用して漢字を調べる。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	10 (書く 10)	三 伝わりやすい組み立て を考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。			
		リーフレットで知らせよう	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。 ⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。	1 2・3 4～6 7～9 10	○「学習の進め方」を読み、何を誰に報告するのを考え、学習活動の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。 (1) 自分が調べたい課題を見つける。 (2) 見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。 組み立てよう（重点） 2. リーフレットの組み立てを考える。 (1) メモの中から取り上げたい項目を洗い出す。 (2) 伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。 (3) グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。 書こう・読み返そう（重点） 3. リーフレットを作り、読み返す。 伝え合おう 4. 読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えてようとしている。
6～7	4 (書く 1)	短歌の世界	△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にすること。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。	1 2・3 4	○p. 64・65を読んで、学習のめあてをつかむ。 1. 短歌の特徴を知る。 2. 解説を読みながら、それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。 3. 好きな短歌を選んで、書き写したり、感想を書いたりする。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	2	漢字の広場 ② 漢字の音を表す部分	△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使うこと。⇒知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「寺・時」「板・飯・坂」に共通している部分 がそれぞれ何を表しているか考える。 2. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
				2	3. p.71の上段の設問を解き、音を表す部分への関心を深める。 4. 漢字辞典の音訓索引を使い、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、発表し合う。 5. 音を表す部分の中には、文字によって音が違うものがあることを知る。	
	2 (書く2)	漢字の広場 ② 三年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	時	学習活動	評価規準
7	10 (話す聞 く2)	四 登場人物のせいかく や、気持ちを想像して読 もう	□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読 したり、演じたりする。			
7		ぞろぞろ (落語)	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言 葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す こと。 ⇒◎知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割 について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心な ど情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情 報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知 技(3)オ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や 強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判 表A(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの 変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒ ◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景につい て、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像 すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や 考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それら を聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考え たことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表 C(2)イ	1・2 		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	2	漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第３学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。 2. 送り仮名に着目し、常体を敬体に変えてみて、話し合う。 3. 例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字	△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表 B (1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表 B (2)ウ	3	6. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。 7. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表 B (1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表 B (2)ウ	4・5	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. ３年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 10. 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
				2	2. 設問に取り組み、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりする。 ○学習を振り返る。	たずねる。

